

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2010～2014

課題番号：22680048

研究課題名(和文) 開発途上国における「スポーツを通じた開発と平和」に関する研究

研究課題名(英文) The research for the Development and Peace through Sport in developing countries

研究代表者

岡田 千あき (Okada, Chiaki)

大阪大学・人間科学研究科・准教授

研究者番号：40335401

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,700,000円

研究成果の概要(和文)：初年度は日本とカナダの事例を検証した。2年目以降、カンボジア(社会開発)、マレーシア(青少年教育)、ジンバブエ(HIV/AIDS啓発)の事例の現地調査を複数回行い、成果をまとめた。

研究開始時に日本語、英語による成果発表と、研究者・実務者間のネットワークの構築を目標に定めていた。5つの事例から、開発分野において期待されている「スポーツ」の役割や機能が明らかになり、この成果を一般書、専門書にまとめた。出版に際し、多くの他事例について、国内外の関係者から寄稿をいただいた。研究会や国際シンポジウムも開催したことから、事例研究の成果を公表すると共に関係者のネットワークが構築できたと考えている。

研究成果の概要(英文)：Canadian and Japanese cases were initially examined to prepare a research frame. We adopted a qualitative approach to better understand the role of sport in our selected sites. Starting in Year Two, at least one field study was undertaken in Cambodia (community development), Malaysia (youth education) and Zimbabwe (HIV/AIDS awareness). The presumed impact of 'sport' for development was analyzed in at least five different cases which were reported as conference papers, journal articles and books. One of our goals was to establish a network among Japanese and international researchers and practitioners. Via the publication process, especially of books in English and Japanese, we reached this goal. Additionally, we hosted workshops and participated at international symposia. In brief, our research on sport and social development met its intended goals, has led to publications in two different languages, and continues to contribute to our understanding of sport in human communities.

研究分野：スポーツを通じた開発

キーワード：スポーツを通じた開発 スポーツを通じた平和 HIV/AIDS啓発 青少年教育 社会開発 開発と平和のためのスポーツ

1. 研究開始当初の背景

2004年度より、科研若手研究Bで「ポストコンフリクト社会のスポーツの導入に関する研究」として、ボスニア、東ティモール、カンボジアにおいて実施されたスポーツ活動の事例を検証した。これらの地域では、政府の機能が不全、あるいは弱体化しており、実施されるスポーツ活動の多くは、地域住民が主体となった自発的なものであった。

2007年度より、科研若手研究Bで「ポストコンフリクト社会のスポーツの展開に関する研究」として、スポーツに関わる住民の自発性が発露する過程の分析を行った。具体的事例として、カンボジアで行われているサッカー大会を取り上げ、参加者への質的調査と量的調査の結果を分析した。その結果、スポーツの持つ内発性(Spontaneousness)、柔軟性(Flexibility)、広範性(Popularity)などの特徴が、開発手段としてのスポーツが持つ優位性ではないかという結論に至った。

2008、2009年に国際学会で上述内容の発表を行った。諸外国の研究者の共通した問題認識として、開発途上国の「スポーツを通じた開発・平和」活動の成果を質的に分析する枠組みの不在、特にアジアや大洋州など当該地域の社会の文脈に合わせた分析の必要性が指摘された。

2. 研究の目的

開発途上国において、「開発」と「平和」の実現を目的に実施されているスポーツ活動の具体的な貢献を現地調査の結果から検証する。「開発」、「平和」を推進する一方法としてのスポーツが、他の開発方法と比較してどのような(優位な)特徴を持つのか、特に、開発や復興期の混乱する社会に、スポーツを導入することで生まれる変化や、目に見えづらい活動の成果を質的調査手法を用いて検証し、開発途上国の現場への具体的なスポーツの貢献を明らかにする。具体的には、日本、カナダで行われている類似プログラムを先行事例として検証し、開発途上国の事例に有効な指標の抽出と分析枠組みの構築を行い、最終的には、アジア、大洋州の開発途上国の事例への適合を試みることを目的とする。

3. 研究の方法

海外で行うフィールドワークに先駆けて、初年度は日本の事例(ホームレスワールドカップ日本代表の活動)と共同研究者が居住するカナダの事例(先住民族のスポーツ活動)を検証した。フィールドワークにおいて質的調査と量的調査の併用を試みたが、言語や調査期間、調査環境等の問題が明らかになり、次年度以降のフィールドワークにおいては質的調査のみを採用することとした。

2年目以降、カンボジア(観光業サッカーリーグ【テーマ:社会開発】)、マレーシア(マレーシア国際駅伝【テーマ:青少年教育】)、ジ

ンバブエ(ジンバブエ野球連盟による野球普及活動【テーマ:HIV/AIDS啓発】)について、複数回にわたるフィールドワークを行い、関係者に対する個別・グループインタビューと参与観察を並行して行った。分析結果について適宜フィードバックを行い、フィールドからのコメントを得たほか、国際学会やシンポジウムなどでの発表を通じて、他の研究者からの知見を得た。

4. 研究成果

本研究のテーマである「スポーツを通じた開発」は、分野としての歴史が浅く、国際的にも研究の蓄積が十分でないことが課題である。そのため、研究の開始当初に日本語、英語による研究成果の発表と、研究者・実務者間のネットワークの構築を目標に定めていた。5つの事例のフィールドワークから、開発分野において期待された「スポーツ」の複数の役割や機能が明らかになり、これらの成果を一般書、専門書にまとめた。書籍の出版に際し、さらに他の多くの事例について、国内外の研究者、実務者から寄稿もいただいた。

研究会や国際シンポジウムも開催したことから、事例研究の成果を公表すると共に、日本国内における関係者のネットワークが構築に寄与することができたと考えている。

一方で本研究において、国・地域×開発課題×スポーツ活動の複数の事例を検証したが、各々の事例の独自性が強く比較検討が困難であることが明らかになった。加えて、全ての開発課題の根底には「経済的な貧困」があるという事実を再認識せざるを得なかった。

したがって今後の研究においては、「貧困」をテーマの中心に据え、スポーツが貧困削減に果たす役割を検証することを目的として「開発と平和のためスポーツ」の本質にせまりたいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11 件)

岡田千あき、山口泰雄、カンボジアの現代コミュニティに関する一考察、人間科学研究科紀要、査読無、36巻、2010、197 - 217

岡田千あき、カンボジアのスポーツ発展への取り組み - ポルポト時代を生きたサッカー選手のライフヒストリーから - 、人間科学研究科紀要、査読無、37巻、2011、231 - 250

Chiaki Okada, Kevin Young, Sport and Social Development: Promise and Caution from an Incipient Cambodian Football League, International Review for the Sociology of Sport, Reviewed, Vol.47, No.1, 2012, pp. 5-26

岡田千あき、山口泰雄、開発途上地域にお

けるスポーツ参加と生活満足 - カンボジア王国のサッカーリーグの事例から -、生涯スポーツ学研究、査読有、8巻、2号、2012、31 - 41

岡田千あき、ヤングケビン、開発途上地域におけるスポーツを通じた社会開発 - カンボジアの事例検証 -、運動とスポーツの科学、査読有、17巻、1号、2012、91 - 99

岡田千あき、なぜ貧しさの中でスポーツをするのか - ホームレスワールドカップ日本代表『野武士ジャパン』の事例から -、人間科学研究科紀要、査読無、38、2012、59 - 78

岡田千あき、スポーツを用いた HIV/AIDS 啓発 - ジンバブエの事例からみる特徴 -、人間科学研究科紀要、査読無、39、2013、107 - 123

岡田千あき、アフリカにおける開発と平和構築 -、現代スポーツ評論、査読無、31、2015、66 - 74

岡田千あき、スポーツによる地域開発 - スポーツと国際協力 -、体育の科学、査読無、65巻、2号、2015、103 - 107

岡田千あき、国際社会における『開発と平和のためのスポーツ』20年、人間科学研究科紀要、査読無、41巻、2015、99 - 118

Chiaki Okada, Why Sport Makes Sense to People who Live in Poverty: 'Nobushi Japan' for the Homeless World Cup 2011: A Case Example, Osaka Human Sciences, non-reviewed, 1, 2014, Printing

[学会発表](計 11 件)

Chiaki Okada, Efforts for Redevelopment of Sport in Cambodia - Looking back at a Life History of a Football Player who survived the Khmer Rouge Regime -、日本運動スポーツ科学学会国際健康・スポーツ分科会第 8 回大会、2010 年 8 月(JICA 九州)

岡田千あき、途上国におけるスポーツを通じた開発 - カンボジア王国のサッカーリーグの事例から -、日本生涯スポーツ学会第 12 回大会、2010 年 10 月(仙台大学)

岡田千あき、ヤングケビン、スポーツを通じた国際社会開発 - カンボジアの事例検証 -、日本運動スポーツ科学学会第 18 回大会、2011 年 6 月(日本体育大学)

岡田千あき、カンボジアのスポーツ発展への取組み - ポルポト時代を生きたサッカー選手のライフヒストリーから -、日本スポーツ社会学会第 20 回記念大会、2011 年 6 月(成蹊大学)

Kevin Young, Chiaki Okada, Circle Games: Cambodian Reflections on Sport and Social Development, 7th World Congress of International Sociology of Sport Association, 12 -15 July 2011,

Havana, Cuba

齊藤一彦、渡部隼二、岡田千あき、開発途上国のスポーツ教育事情に関する研究 - 青年海外協力隊の派遣動向に着目して -、日本運動スポーツ科学学会国際健康スポーツ部会第 9 回大会、2011 年 9 月(JICA 横浜)

岡田千あき、スポーツを用いた HIV/AIDS 啓発活動とその類型、第 13 回国際開発学会企画セッション「開発におけるスポーツの新しい役割」、2012 年 6 月 2 日(横浜国立大学)

岡田千あき、スポーツを通じた HIV/AIDS 啓発 - ジンバブエの野球普及活動の事例から -、日本運動・スポーツ科学学会第 21 回大会、2014 年 6 月(玉川大学)

Chiaki Okada, Kevin Young, The Contributions of Sport to HIV/AIDS Awareness, 5th International Conference on Sport and Society, 16-17 July 2014, Rio de Janeiro, Brazil

岡田千あき、『スポーツを通じた開発』の発展に向けた論点整理、日本運動スポーツ科学学会国際健康スポーツ部会第 12 回大会、2014 年 8 月 30、31 日(広島経済大学)

岡田千あき、『開発と平和のためのスポーツ』研究の動向 - 開発現場と政策をつなぐために -、日本スポーツ社会学会第 24 回大会、2015 年 3 月(大阪体育大学)

[図書](計 3 件)

岡田千あき編著、大阪大学出版会、サッカーボールひとつで社会を変える - スポーツを通じた社会開発の現場から -、2014、273

Kevin Young, Chiaki Okada(Eds.), Emerald, Research in the Sociology of Sport Vol. (8), Sport, Social Development and Peace, 2014, 275

齊藤一彦、岡田千あき、鈴木直文編、大修館書店、スポーツと国際協力 - スポーツに秘められた豊かな可能性 -、2015、240

[産業財産権]

○出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

岡田千あき (OKADA CHIAKI)
大阪大学・大学院人間科学研究科・准教授
研究者番号：40335401

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

ヤング・ケビン (YOUNG KEVIN)
カルガリー大学・教授
研究者番号：